

大牟田市のユネスコスクール

大牟田市では全小・中・特別支援学校が、ユネスコスクールに加盟し、持続可能な開発のための教育（ESD）を進めています。



ユネスコスクール (ESD推進拠点) コンソーシアム
〈大牟田市教育委員会〉





ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。

ユネスコスクールは、1953年、ASPnet (Associated Schools Project Network) として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体として発足しました。2013年には60周年を迎えました。世界180カ国で約9,000校がASPnetに加盟して活動しています。日本国内では、2014年4月現在、705校の幼稚園、小学校・中学校・高等学校及び教員養成系大学がこのネットワークに参加しています。日本では、ASPnetへの加盟が承認された学校を、ユネスコスクールと呼んでいます。ユネスコスクールは、そのグローバルなネットワークを活用し、世界中の学校と交流し、生徒間・教師間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展をめざしています。



ユネスコスクールの活動目的

- ユネスコスクール・ネットワークの活用による世界中の学校と生徒間・教師間の交流を通じて、情報や体験を分かち合うこと。
- 地球規模の諸問題に若者が対処できるような、新しい教育内容や手法の開発・発展をめざすこと。

ユネスコスクールの理念



ユネスコスクールは「平和の案内役」であり、効果的な変化をもたらす媒体です。2000年世界教育フォーラムで採択された6つのダカール目標にも記されているように、ユネスコスクールは「万人のための教育」を達成するために不可欠です。



キーワードは「つながい」

人と人がつながるために、国と国がつながるために、そして、今と未来がつながるために、今できる最大の事を取り組んでいきましょう！

ユネスコスクールは、ESD（持続可能な開発のための教育）の推進拠点です。

大牟田市は平成23年度に市内の全小・中・特別支援学校がユネスコスクールに加盟しました。

※ 文部科学省および日本ユネスコスクール国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置付けています。

「ESD（持続可能な開発のための教育）」とは何ですか？

ESD: Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育）とは、この地球で生きていくことを困難にするような問題について考え、立ち向かい、解決するための学びです。ESDは持続可能な社会の担い手を育む教育です。

○ESDの実践には、特に次の2つの観点が必要です。

- ・ 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
- ・ 他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むこと

そのため、環境教育、国際理解教育等の持続可能な発展に関わる諸問題に対応する個別の分野にとどまらず、環境、経済、社会の各側面から学際的かつ総合的に取り込むことが重要です。

ESDは、第2期教育振興基本計画（平成25年6月策定）に、我が国の教育の重要な理念の一つとして位置付けられており、学習指導要領（平成20年、21年公示）にも、持続可能な社会の構築の観点が盛り込まれています。

日本ユネスコ国内委員会

ESDの愛称

大賞「今日よりいいアースへの学び」

優秀賞「地球の未来をつくる学習」「地球みんなのためのプログラム」

（※優秀賞は二作品とも大牟田市の児童生徒の作品です）



ESDの概念図

大牟田市で取り組んでいる ESD (持続可能な開発のための教育)

エネルギー・環境学習

「身近な環境のつながりを知る」エネルギー・環境学習

大牟田市には、有明海や三池山をはじめとする豊かな自然があります。また、大規模なりサイクルセンターやRDFセンターなどの資源再利用施設も存在し、**市をあげて環境保護**に取り組んでいます。

その身近な自然に直接触れたり、校内ビオトープの管理に取り組んだりして、**生き物や環境と自分とのつながり**について学習していくことで、自分たち自身が地球の一員としてどのように行動していけばよいのかを考えることができるようにしています。



校内ビオトープ

国際理解学習

「つながろう、世界は一つ」異文化を学ぶ学習

大牟田市は、石炭採掘の技術開発などのつながりで、30年程前から中国大同市と交流が始まりました。25年程前からは、市の代表小学校として、第十八小学校と平原小学校、第三中学校と延命中学校が友好交流校になり、お互いの「正月」と「春節」をお祝いするプレゼント交換を続けています。年に1、2回、中国の方が来校もされます。

また、異文化を学ぶために、低学年は外国の歌や挨拶、中学年は国旗や遊びを調べます。高学年は、世界の国々とのつながりや世界遺産について調べまとめます。

様々な学習を通して、「国や言葉、習慣が違って**仲良く平和でいたい**思いは同じ」ことや「同じ地球人として**お互いを思いやる気持ち**が大切」であることを学んでいきます。



両国の旗でお出迎え



温かい言葉が嬉しいです

世界遺産・地域学習

郷土愛と思いやりの心を育む世界遺産・地域学習

大牟田市には、世界遺産候補として推薦されている明治日本の産業革命遺産「旧三池炭鉱専用敷」「宮原坑跡」「三池港」等が存在しています。これらの地域の宝を生かして、生活科や総合的な学習の時間において、体験的な活動を仕組み、地域の「ひと・もの・こと」とかかわったり、つながったりしながら、これから自分たちが地域に対してできることを考え、発信しています。

また、大牟田市教育委員会作成による「子ども大牟田検定ガイドブック」を活用した「子ども大牟田検定（3年生～6年生）」が年に2回開催され、地域に対する愛着や思いやりを深めています。



宮原坑子どもボランティアガイド



子ども大牟田検定（実施の様子と問題）



子ども大牟田検定ガイドブック

福祉教育

地域と共に生きる学習

『誰もが住みよい街』づくりを目指して「地域とつながり、共に支え合いながら生きていくために」をテーマに「認知症・絵本教室」「独居高齢者宅訪問」「徘徊模擬訓練」等自分たちにできることを考え、行動、発信することに積極的に取り組んでいます。

また、特別支援学校との交流をとおして、共に幸せに生きるには自分たちはどうすればよいのか、交流体験が語りかけてくれるものに気づき豊かな人間形成を図っています。



『絵本教室』でできること発表



特別支援学校との七夕交流



地域の方と「独居高齢者宅訪問」



大牟田市が進めるグローバル人材育成のためのコンソーシアム事業とは？

事業の目的

大牟田市教育委員会が中核となり、福岡県教育委員会、福岡教育大学、参画企業及び諸団体等の協力を得ながら、市内のユネスコスクールの「持続可能な開発のための教育(ESD)」のさらなる充実・深化を図るとともに、九州地区を中心とした他地域や海外のユネスコスクール、及びユネスコスクール以外の学校との交流を図り、ESDのさらなる普及発展に期することにより、グローバルに活躍するために求められる資質・能力を育むESDの幅を広げ、学校に限らない広範な普及を図り、国際的視野を持つグローバル人材の裾野を広げる。

コンソーシアムの形成

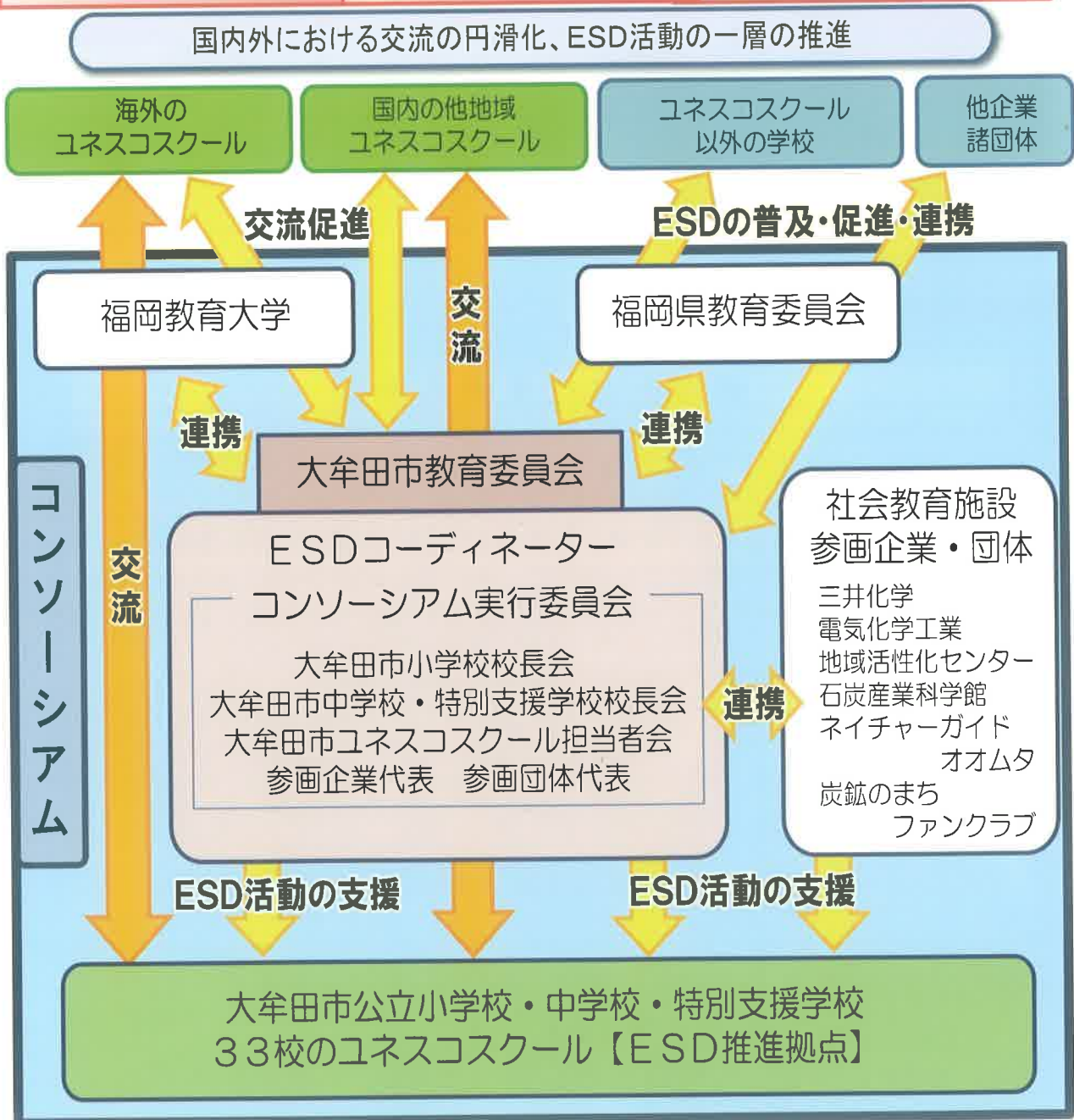
教育委員会及び大学が中心となり、ユネスコ協会及び企業等の協力を得つつ、ESDの推進拠点であるユネスコスクールとともにコンソーシアムを形成する。

コンソーシアムの機能化

- ・国内外の学校との交流促進
- ・コンソーシアムメンバー間の連携強化
- ・社会教育施設等との連携強化
- ・域内の学校等へのESDの普及および促進

グローバル人材の育成

グローバルに活躍するために求められる資質・能力を育むESD活動の幅を広げ、学校に限らない広範な普及を図り、国際的視野を持つグローバル人材の裾野を広げる。



「グローバルな人材を育成する」ためには？

ESDで重視する能力・態度を育成することが、グローバルな人材の育成につながります。

国立教育政策研究所(平成24年)

ESDで重視する能力・態度		キー・コンピテンシー OECD(2005)
①批判的に考える・判断する力	合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協動的、代替的に思考・判断する力	相互作用的に道具を用いる
②未来像を予測して計画を立てる力	過去や現在に基づき、あるべき未来像(ビジョン)を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力	
③多面的、総合的に考える力	人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かわり・ひろがり(システム)を理解し、それらを多面的、総合的に考える力	
④コミュニケーションを行う力	自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力	異質な集団で交流する
⑤他者と協力する態度	他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度	
⑥つながりを尊重する態度	人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かわりに関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする態度	自律的に活動する
⑦すすんで参加する態度	集団や社会における自分の発言や行動に責任を持ち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度	



大牟田市では、学校の特色や発達段階等に応じて、国内外のユネスコスクール間の交流の促進を行い、国際的視野を持つ人材の育成をめざしています。

大牟田市グローバル人材育成コンソーシアム団体

2014年8月現在

大牟田市教育委員会

【コンソーシアム実行委員会】

- ・ 実行委員長（大牟田市教育委員会教育長）
- ・ 大牟田市小学校校長会会長
- ・ 大牟田中学校・特別支援学校校長会会長
- ・ コンソーシアム参画企業・団体代表者
- ・ 大牟田市ユネスコスクール担当者会担当校長
- ・ 大牟田市ユネスコスクール担当者会担当教頭
- ・ 大牟田市ユネスコスクール担当者会部長
- ・ 大牟田市ユネスコスクール担当者会副部長
- ・ 事務局長（学校教育課指導室長）
- ・ 事務局員（学校教育課指導室指導主事）

福岡教育大学

- ・ 石丸 哲史 教授（ESDコーディネーター）

社会教育施設

- ・ 石炭産業科学館
- ・ リフレス大牟田
- ・ えるる

参画企業・団体

- ・ 三井化学
- ・ 電気化学工業
- ・ 地域活性化センター
- ・ ネイチャーガイドオオムタ
- ・ 炭鉱のまちファンクラブ

ユネスコスクール

- | | | | | |
|----------|---------|-------------|----------|----------|
| ・ みなと小学校 | ・ 天領小学校 | ・ 駛馬南小学校 | ・ 駛馬北小学校 | ・ 天の原小学校 |
| ・ 玉川小学校 | ・ 上官小学校 | ・ 大牟田小学校 | ・ 大正小学校 | ・ 中友小学校 |
| ・ 明治小学校 | ・ 白川小学校 | ・ 平原小学校 | ・ 高取小学校 | ・ 三池小学校 |
| ・ 羽山台小学校 | ・ 銀水小学校 | ・ 上内小学校 | ・ 吉野小学校 | ・ 倉永小学校 |
| ・ 手鎌小学校 | ・ 船津中学校 | ・ 右京中学校 | ・ 米生中学校 | ・ 勝立中学校 |
| ・ 延命中学校 | ・ 松原中学校 | ・ 白光中学校 | ・ 歴木中学校 | ・ 田隈中学校 |
| ・ 橘中学校 | ・ 甘木中学校 | ・ 大牟田特別支援学校 | | |

※参考資料 日本ユネスコ国内委員会「ユネスコスクールと持続発展教育(ESD)」
「持続可能な開発のための教育(ESD)とユネスコスクール」